

2011 年度 小委員会活動成果報告

(2012 年 2 月 6 日作成)

| | | |
|------------------------------|---|--|
| 小委員会名 | バイオクライマティックデザイン 出版本作成小委員会 | 主 査 名：長谷川兼一 就任年月：2011 年 4 月 |
| 所属本委員会 (所属運営委員会) | 環境工学委員会 (企画刊行運営委員会) | 委員長名：佐土原 聡 主 査 名：久野 覚 |
| 設 置 期 間 | 2010 年 4 月 ～ 2012 年 3 月 | |
| 設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き) | <p>「バイオクライマティックデザイン」に関わる建築環境計画の内容に関する出版本の作成を進め、バイオクライマティックデザインの重要性を広く社会に普及させるために、以下の内容について活動を進める。</p> <p>1)バイオクライマティックデザイン出版本の構成内容の検討 2)出版本の編集会議（出版社編集者を交えて） 3)シンポジウム開催の企画・実施（出版本の紹介）</p> | |
| 委員構成 (委員名(所属)) | 委員公募の有無：有り | |
| | <p>主査：長谷川 兼一（秋田県立大学） 幹事：廣谷 順子（みつつデザイン研究所），斉藤 雅也（札幌市立大学） 委員：宇野 朋子（電力中央研究所），金子 尚志（エステック計画研究所），北瀬基哉（環デザイン舎），小玉 祐一郎（神戸芸術工科大学），鈴木 信恵（東京都市大学），須永 修通（首都大学東京），深澤たまき（元神奈川大学）</p> | |
| 設置 WG (WG 名：目的) | なし | |
| 2011 年度予算 | 円 | ホームページ公開の有無：有り 委員会 HP アドレス： http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s14/ |

| 項 目 | 自己評価 |
|--------------------------------|---|
| 委員会開催数 | 6 回（年度内計画を含む） |
| 刊行物 (シンポジウム資料等は除く) | 1. 設計のための建築環境学 ～みつける・つくるバイオクライマティックデザイン |
| 講習会 | 1. なし |
| 催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等) | 1. 第 41 回熱シンポジウム「みつける・つくるバイオクライマティック建築」 参加者数 95 名 資料名：同上 |
| 大会研究集会 | 1. なし |
| 対外的意見表明・パブリックコメント等 | 1. なし |
| 目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係) | <p>小委員会の設置当初の活動計画は以下の 3 点としていた。</p> <p>1)バイオクライマティックデザイン出版本の構成内容の検討 2)出版本の編集会議（出版社編集者を交えて） 3)ミニ・シンポジウム開催の企画（出版本の紹介）</p> <p>上記 1), 2) を通じて当年度内に、当初の計画通り刊行物として「設計のための建築環境学 ～みつける・つくるバイオクライマティックデザイン」（彰国社）を 2011 年 5 月に刊行することができた。</p> <p>また、2011 年 11 月には、刊行物の紹介を兼ねてシンポジウム(第 41 回熱シンポジウム，札幌市立大学，95 名参加)を開催した。これは上記 3) に該当する。</p> <p>以上の通り，当初計画の全てを実施することができた。</p> |
| 委員会活動の問題点・課題 | なし |

2011 年度 バイオクライマティックデザイン出版本作成小委員会活動 自己評価

(~~中間年度評価~~・最終年度評価)

| 総合評価 (4 段階評価) | <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> A B C D </div> |
|--|---|
| <p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p> | <p>小委員会の設置当初の活動計画は以下の 3 点としていた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) バイオクライマティックデザイン出版本の構成内容の検討 2) 出版本の編集会議（出版社編集者を交えて） 3) ミニ・シンポジウム開催の企画（出版本の紹介） <p>上記 1), 2) を通じて当年度内に、当初の計画通り刊行物として「設計のための建築環境学 ～みつける・つくるバイオクライマティックデザイン」（彰国社）を 2011 年 5 月に刊行することができた。</p> <p>また、2011 年 11 月には、刊行物の紹介を兼ねてシンポジウム(第 41 回熱シンポジウム、札幌市立大学、95 名参加)を開催した。これは上記 3) に該当する。</p> <p>以上の通り、当初計画の全てを実施することができた。</p> |